

副鼻腔炎

寒い冬、風邪をひきやすい時期になりました。

風邪から副鼻腔炎を起こしやすいので、注意しなければいけません。

副鼻腔とは

鼻腔とは鼻の穴のことを言います。この鼻腔のまわりには、洞窟のように骨に囲まれた部屋があります。左右それぞれ4個ずつ、合計8個あり、鼻腔とつながっていて、これを副鼻腔と呼びます。

4つの副鼻腔は、(1)目と目の間にある「篩骨洞（しこつどう）」、(2)その奥にある「蝶形骨洞（ちょうけいこつどう）」、(3)目の下にある「上顎洞（じょうがくどう）」、(4)鼻の上の額にある「前頭洞（ぜんとうどう）」です。

目の下の上顎洞が最も炎症を起こしやすいとされています。

原因

副鼻腔炎の原因はウィルス性の風邪、鼻の炎症だけでなく、咽頭炎や扁桃炎などののどの炎症、真菌（しんきん）（=かび）、虫歯なども副鼻腔炎の原因となることがあります。また、細菌感染のないアレルギー性鼻炎や気管支喘息、アスピリン喘息などのアレルギーによって起こる病気が原因となることもあります。乾燥、冷たい空気、喫煙、異物なども上部気管の粘膜を傷つけてしまいます。鼻粘膜から続く、副鼻腔粘膜が傷つき、炎症を起こし、通常問題なく開いているはずの空洞の入り口が狭まり、バクテリアが2次感染を起こし、副鼻腔炎の症状を引き起こします。

副鼻腔炎の症状

風邪の悪化：鼻づまり・黄緑の鼻が出る

頭痛、発熱、

両目・または片目の奥の痛み（特に朝や前屈みになると悪化する）

鼻声、鼻呼吸ができない

鼻漏

歯の痛み

治療

ウイルス性の風邪の場合は、体がウイルスに抗体を作り次第、改善されますが、まずは休養、湯気（暖かい蒸気）を吸い込む、アスピリン、パナドール®や鼻炎用内服薬（鬱血剤）を使用してみましょう。

急性副鼻腔炎が悪化すると、中耳炎、眼窩内感染症になるケースもあります。薬局のお薬を数日使っても改善が見られない場合は、薬剤師、かかりつけ医の診断を受けてください。抗生剤の使用、または他の施術が必要な場合があります。

特に小さいお子さんは、うまく鼻をかめずに、鼻をすするようにすることがあります。また、鼻水がのどの奥の方へ流れて、痰の絡んだような咳をしたり、鼻づまりのため、いびきをかくようになることもあります。

このような副鼻腔炎のサインがある時は、ひどい症状はなくても、早めに受診しましょう。